

大プロット調査終了!

森林環境保全センターが昨年から実施してきた、平瀬国有林二林班のモニタリングプロット(大プロット)の調査がこのほど終了し、このプロット内で確認できた樹木は、モクダチバナをはじめ約六〇種類でした。

このモニタリングプロットは、暖帯性下位に位置する照葉樹林帯の、森林の移り変わりを観察するためのもので、四ヘクタールの区域を一〇m×一〇mのプロット四〇〇個に区画し、各プロット毎に樹種を判別し、胸高周囲を測定するとともに樹幹配置図を作成しました。

調査にあたっては、天候や調査員の確保に苦労しましたが、樹種名の判別が一番難航しました。

なにぶん普段目にはない樹種や、葉・樹皮等も個体ごとに多様で、樹種名の決定に凶鑑の手放せない調査になりました。たが、モクダチバナをはじめ約六〇種類の樹木を確認できた調査員は、屋久島の樹木を覚えるよい機会となりました。



また、調査に御協力いただいた宮之浦・小瀬田・栗生森林官及び各関係機関の方々に紙面を借りてお礼申し上げます。

海外技術者に研修を実施

森林環境保全センターでは六月二五日、大分県海外協会からの委託によるフィリピン共和国天然資源省の林業技術者一〇名を対象に、屋久島における森林保全及び利用等を紹介し、森林保全事業の理解を深めてもらうよう研修を行いました。

当日は保全センター会議室で、センター所長が屋久島の概要、屋久島国有林の概要と歴史、保全センターの業務等について説明を行ったあと現地研修に移りました。

白谷雲水峡とヤクスギランドでは、「森林生態系の保護と森林レクリエーションの場としての利用の両立」を図るための遊歩道の整備、民間活用による森林環境整備推進協力金制度の導入、澄みきつた

屋久島の植物



三行脈が葉の下端、葉柄のつけ根から分かれているのに注意。果実は楕円形で、12月に黒く熟す。

マルバニッケイ (クスノキ科)

葉は倒卵形、二、五×四×二、三cm、かたい革質。葉柄は六、七mm。若枝は角ばり、微毛をかぶり、折るとシヨウノウのにおいがする。海岸の崖に生じる亜熱帯の小高木。鹿児島県南部以南に分布するほか、男女群島、福岡県大島と九州西岸にとびとびに出現している。

屋久島の海岸線にも多く自生しており、あるピヤガーデんで、夕方蚊よけに枝葉をいぶしているのを見かけた。

自然休養林総会を開催

豊富な水、藩政時代の屋久杉の伐採、屋久杉のギヤツプ更新と二代杉等について勉強し

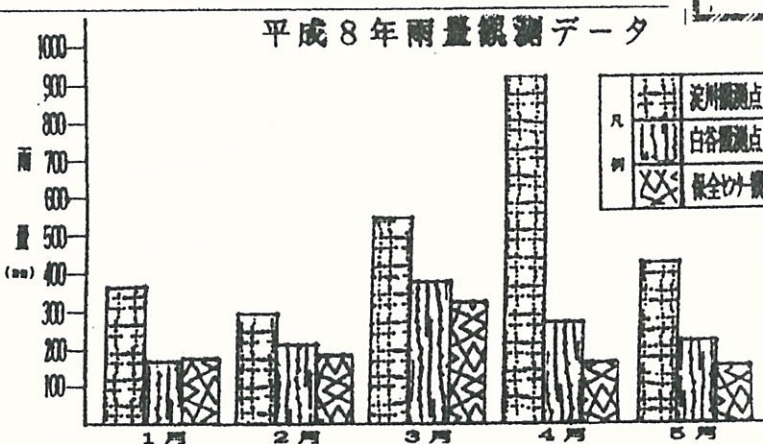
平成八年度屋久島自然休養林白谷地区保護管理協議会総会と大自然緑の会総会が、六月一四日シーサイドホテル屋久島で開催されました。

「白谷地区保護管理協議会総会」の、平成七年度事業経過報告では、白谷雲水峡内の風倒木除去や歩道の補修、美化・清掃活動広報宣伝活動等を実施し、平成七年八月四日に認定された「水源の森百選」記念碑建立の一部補助を行ったことについて報告されました。

引き続き開催された「大自然緑の会総会」では、平成八年度取組予算案等について協議され、この中で、今年四月から導入された協力金制度実

雨量観測データ報告

▲	淀川観測点
■	白谷観測点
◇	保全センター観測点



山地災害防止のために、保全センターで設置している雨量計のデータを、3箇所(1〜5月分)回収しましたので掲載します。

淀川観測点の4月の雨量が924mmと突出しているのが良くわかります。

施についての理解をより深めていただくために、来島の方々への広報宣伝活動を実施していくこと等が提案されました。

両総会とも原案とおりの承認され終了しました。